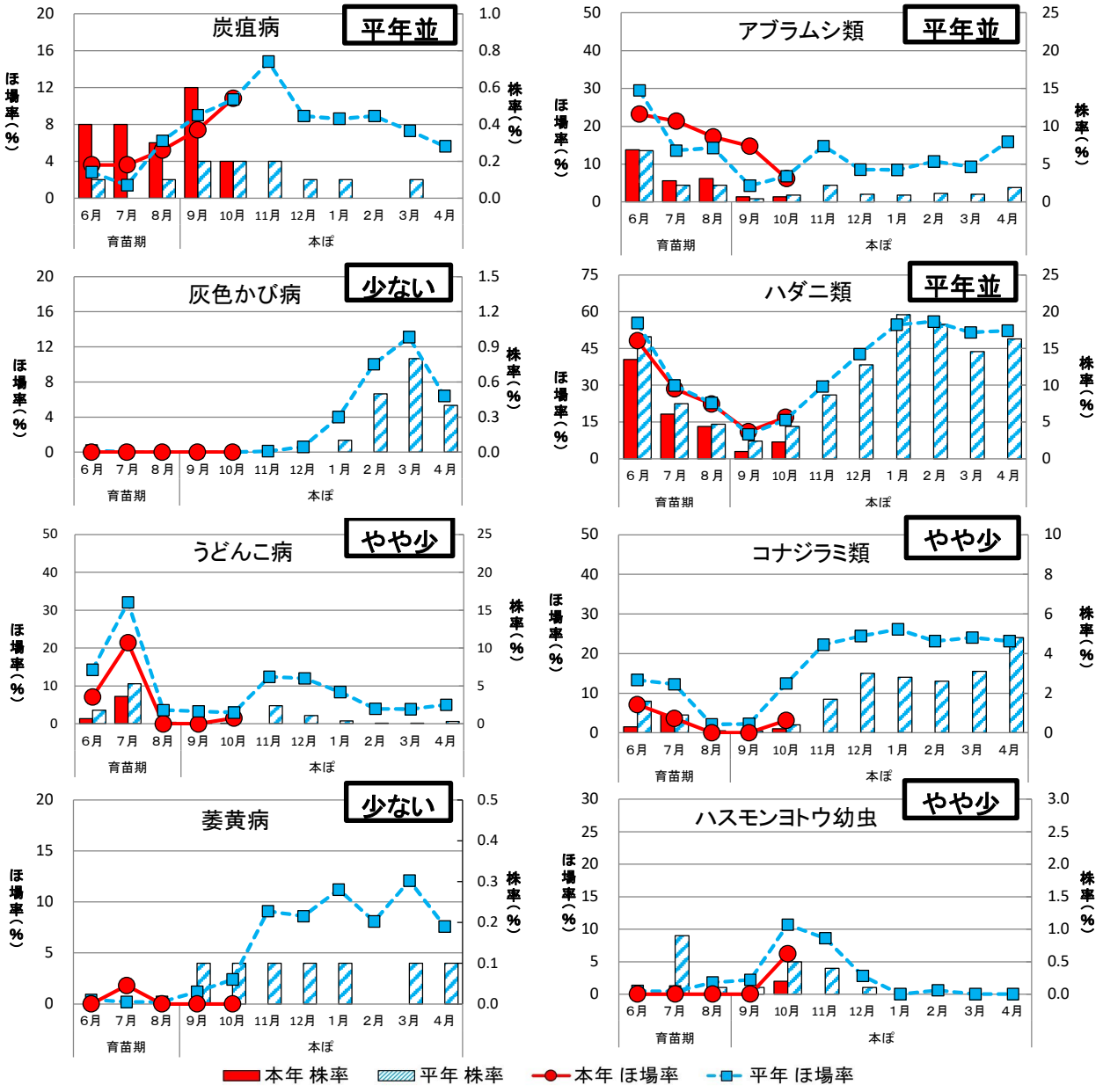
いちご病害虫情報第５号（10月）

令和６(2024)年10月18日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■　病害虫の発生状況　【総調査ほ場数：65 か所 】



※ほ場あたり25株調査　※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株　※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■　今月の防除ポイント

－　アザミウマ類の防除対策　－

野外のアザミウマ類は11月頃まで活発に活動します。10月中旬までに開花が進んだほ場では、アザミウマ類の野外からの侵入が多くなる傾向にあります。冬季の発生は、ハウス内の残存個体に由来するため、よくほ場を観察し、適切に防除を行いましょう。

１　ハウス内外の除草を行うほか、ハウス内の不要な植物を除去する。
２　花をよく観察し、その１割以上にアザミウマ類が認められる場合には、薬剤防除を行う。なお、薬剤は、花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して選択する。
３　薬剤感受性の低下を避けるため、必ず RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

■　今月のトピックス　ハダニ類

被害について

　ハダニ類（写真１）は、県内の促成栽培いちごにおいて親株から栽培終了時まで周年で発生し、多発すると株の生育不良や果実品質低下等の被害が生じます。

　ハダニ類は化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RACコードの異なる薬剤のローテーション散布を行いましょう。天敵製剤（写真２）や気門封鎖剤は、薬剤感受性の低下したハダニ類に対しても有効であり、薬剤の散布回数を大幅に減らすことができるため、積極的に活用しましょう。

天敵製剤(カブリダニ類)の使用にあたって

○ 天敵製剤は必ずハダニ類の発生前に放飼する。ハダニ類の発生が多いときは、放飼前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を使用し、ハダニ類の密度を下げる。

○ ハウス内をこまめに見回り、天敵が定着・増殖していることを確認する。状況に応じて追加放飼することにより、安定した効果が期待できる。

気門封鎖剤(物理的防除剤)の使用にあたって

○ 直接ハダニ類にかからなければ効果が得られないため、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

○ 気門封鎖剤の多くは殺卵効果が無いため、卵から孵化した幼虫・成虫に対して５～７日程度の間隔で複数回散布する。

写真１　ナミハダニ雌成虫(いちごでの主要種)
（光沢のない楕円形：約0.6㎜）

写真２　チリカブリダニ成虫(ハダニ類の天敵)
（光沢のある涙形：約0.5㎜）

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（℡ 028-665-1244）までお問合せください。
病害虫情報発表のお知らせはＸ（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html）でもご覧になれます。